

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 6月 3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2275100499
法人名	有限会社 長者の森
事業所名	グループホーム 長者の森
所在地 (電話番号)	〒425-0071 静岡県焼津市三ヶ名559-1 Tel 054-620-8114
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年4月25日

## 【情報提供票より】(平成20年4月5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	11 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 17.9人

### (2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	3 階建ての	2 階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷 金	有( 60,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,500 円	

### (4) 利用者の概要(平成20年 4月 5日現在)

利用者人数	17 名	男性	0 名	女性	17 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	5 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87.8 歳	最低	82 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	畠山クリニック、伊東歯科医院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長者の森は、一つの建物内にグループホームのほか、デイサービス、ショートステイ、保育所が同居し、それぞれのサービスを担っている事業所である。そのため施設への慰問や運動会・クリスマス会などの行事は施設全体で関わっており、高齢者と子どもたちとのふれあいや地域との交流が盛んに行われている。利用者が地域の中にあって普通の暮らしと、思いやりやもてなしの心を理念として掲げ、これが実行されているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価における課題は、改善の跡が見られる。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価における課題については改善の取り組みがみられるが、今回の自己評価の実施に当たっては、管理者自身による評価であって職員全員による評価が行われていない。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を3ヶ月に1回開催しており、会議で出された意見等については日々のケアサービスに活かしているが、開催回数を増やすなどして充実した会議となることを期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会や、運営推進会議における家族代表の意見、訪問時における聴き取り等によって家族等の意見を聴取し運営に反映しているようであるが、記録として残されているものがない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	毎月、併設のデイサービスと共同してイベント(バザー、餅つき、演奏等)を開催して近隣の住民にも開放しているほか、自治会の行事などにも参加している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスを意識して地域社会との関わり合いを理念を掲げている。(地域社会に貢献、普通の暮らし、もてなしの心)		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には必ず理念を伝え、理解してもらうようになっている。また、ホーム内の目のつくところに掲示したり、ミーティングの場などにおいても理念に必ず触れるようになっている。		
2. 地域との支えあい					
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月、併設のデイサービス等と共同してイベント(バザー、餅つき、演奏等)を開催して近隣の住民にも開放しているほか、自治会の行事などにも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価における課題については改善の取り組みがみられるが、今回の自己評価の実施に当たっては、管理者自身による評価であって職員全員による評価が行われていない。	○	評価は、一連の過程を職員全員で取り組むことで、職員の意識あわせ、ケアの振り返りや見直し等が可能となることから、事業所の質の確保のためにも評価の理解と活用を最大限に活かしていくことが望まれる。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を3ヶ月に1回開催しており、会議で出された意見等については日々のケアサービスに活かしている。		

静岡県 グループホーム 長者の森

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回、市の担当者が利用者の意見を聞くためにホームを訪れてくれたり、ホームからも市へ赴いたりしてお互いに連携を図り、サービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月定期的に請求書や預り金記録シートを送付する際、日々の暮らしぶり等を一筆箋により報告している。また、家族等の訪問時においても日々の暮らしぶりや健康状態などを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や、運営推進会議における家族代表の意見、訪問時における聴き取りなどによって家族等の意見を聴取し運営に反映しているようであるが、記録として残されているものがない。	○	意見・苦情への対応で終わりではなく、その苦情・意見の発生原因を探り、課題を検討し、後日のサービスの質の向上をめざすことから、苦情・意見を記録として残されることを望みたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動・交替によるリスクを出来るだけ少なくするため、どの利用者にも対応できるよう、担当を固定せず全員で介護を行っている。また、職員がいつでも介護できるように毎日の申し送りを重視している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の場として、ホーム内外の研修には職員の積極的参加を呼びかけているが、実効は上がっていない。	○	限られた職員体制の中で、実務に支障を来たさないように研修機会を確保するためには、職員と十分話し合いながら、年間計画の中で研修を位置づけていく運営面での工夫が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	志太介護サービス事業者協議会に加入し、交流を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族によるホームの見学には細部にわたり話し合った後、1～2週間利用者本人にホームの日常生活の雰囲気を体験していただき、適性を見極めて入居を決めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴や経験則に照らした関係づくりに配慮し、利用者本人から学んだり、お互いに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや、日々の関わりの中での利用者との会話や表情などから、希望や思いを把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員での話し合い、家族の意向、本人の思いなどを取り入れて、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回を見直し期間とし、毎月モニタリングをしている。職員等と話し合い、状態が変化した場合には付け加えるなど現状に即した計画を作成している。		

静岡県 グループホーム 長者の森

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の保育園・デイサービス・ショートステイなどと一緒に、納涼祭等諸行事を通じて交流している。ドライブで花見に行ったり、外食にも出かけている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、本人及び家族の希望を大事にしている。かかりつけ医と連絡を取り合い往診や看取りに関しても、実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期については、かかりつけ医や家族の意見を聞き相談している。かかりつけ医の指示を仰ぎながら支援し、往診などの対応のもと、看取りまで実施している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する記録などは扉の中に保管するなど、慎重に行っている。多くの職員は、利用者への言葉掛けは静かで優しく対応しているが、利用者の口の周りの汚れの指摘や、トイレの誘導など大きな声で促す場面も一部見られた。	○	一人ひとりの誇りや、プライバシーを損ねるような言葉かけについて、職員間で話し合い、意識の向上を図ることが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の中でも、理解できる人に優先的な生活の部分もあり、一人ひとりの個別の対応については、出来ないこともあるが、大勢はケアプランや申し送りなどによって、利用者の要望やペースを大切に支援を行っている。	○	利用者の中で説明等を理解できない方が多数いるので、どうしても理解できる方を優先してしまうようであるが、ホームの都合や決まりごとに利用者を合わせるのではなく、職員が利用者に合わせていく姿勢や工夫により、できるだけその人らしい生活を支援されることが望まれる。

静岡県 グループホーム 長者の森

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者の嗜好や体調など考慮しながら厨房で作っている。月に数回は利用者とおやつ作りをしている。職員は食事中、利用者の横に座って食事をするのではなく、介助したり、見守り、配膳や片付けなどに徹し、近くで見守っていた。	○	利用者の中には、食事に関しては特に見守りや支えがあれば力を発揮できることがある。その人がそのことをやってみたいという前向きな意思や気持ちを引き出すような声かけや場面作りの工夫を検討され、また、職員も一緒に食事を楽しめる環境作りを前向きに検討されることが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回と決められてはいるが、家庭と同じようなユニット風呂であるため、利用者は個別に入ることにより、職員とゆっくり話しも出来、ゆったりした時を過ごしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で無理なく出来る洗濯物たたみなど行っている。歌集を作って歌ったり、ぬりえに没頭したり、屋上で日光浴、また、ドライブ、外食などにも出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望、また季節や地域のその時々状況に応じて、出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベーターは屋上などへ行ってしまう恐れもあり、危険でもあるので安全確保の為、鍵をかけている。しかし、2ユニットはつながり広い回廊にもなっており、閉塞感はない。利用者の気持ちや状態に応じて、職員が付き添って屋上へいたり、一階の保育園をのぞきに行ったりもしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、職員と利用者が一緒になって、防火訓練・防災訓練をホーム独自で実施している。消防署にも協力してもらっているが、まだ、地域との協力体制は確立されていない。	○	職員だけの誘導には限界がある。運営推進会議などを通じて地域住民、警察などとの連携を図り、協力体制を築かれることが望まれる。

静岡県 グループホーム 長者の森

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況を記録しており、毎月実施される給食委員会において、フロアーの責任者と給食責任者とで検討している。また、水分補給の為に茶ゼリーなども配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間(食堂)には、家庭と同じようにキッチンがあり、ご飯を炊いたり洗い物をする場所や、歯磨きをする洗面所も近くにあり生活感が感じられる。吹き抜けの下を覗くと園児の遊ぶ姿も見られ声も聞こえてきて気持ちが和む。回廊でふたつのユニットがつながっており広々とした安心感のある場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出深い自作の絵や写真、また、お習字教室で習った作品などが飾られていた。		